

令和6年度第2回志木市社会教育委員会議録

令和6年8月19日（月）
午後2時～3時30分
志木市役所 大会議室3-3

出席委員：竹前榮二、宮原正幸、有馬隆江、一ノ倉達也、市之瀬初男、
野島悦子、星野祐子、前田喜春、中村和子、庄司早苗、渡辺恵
（順不同、敬称略）

欠席委員：神谷惣治、石井都、山下美香、荻島亜紗美（順不同、敬称略）
市：柚木博教育長、今野美香教育政策部長
生涯学習課（土崎課長、徳留主幹、石川主任、石井主事、大澤主事補）

1 開 会 石川主任

2 委嘱状交付式：出席委員11名
交付：柚木博教育長

3 あいさつ 柚木博教育長

自己紹介（出席委員及び市職員）

4 議題

（1）議長及び副議長の選任 仮議長 土崎課長
議 長：竹前榮二 委員
副議長：有馬隆江 委員

（2）志木市生涯学習推進指針の検証について 説明：石川主任

事務局より説明

生涯学習指針の検証は、令和3年3月に改訂した、志木市生涯学習推進指針に基づいた事業について、検証するものである。

今回は、令和5年度に実施した生涯学習に関連する事業（委託及び補助事業を含む）で、「志木市生涯学習推進指針」に基づく取組がなされた301事業等について検証した。

(議長) コロナ後になったが、地域によっては夏祭りが復活できないところがある。完全に元に戻すには相当なエネルギーが必要かと思う。

(委員) おやこ劇場はコロナ前に戻りつつある。しかしコロナ禍で人と接触してこなかったという状況を過ごした子どもたちは、習いごと等の忙しさもあって熱中できることを見つける機会が少ないのではないかと心配している。

先日、他市の団体の大人も子どもも遊びながら想像力を伸ばすワークショップを見学した。初めて会った人とのコミュニケーションは大事だと感じるが、市民団体のできることは限られるので、学校等でもぜひ取り入れてほしいと思う。

(議長) 大人目線ではコロナ前と比べてどうか。

(委員) 大人は「田子山」という文字があれば地方からでも来る人は多い。特にコロナの影響はないと感じる。ただ、人にもまれて育っていないからか、祭りの参加の仕方がわからない人がいる。バラバラの点と点がぶつかっているだけで良い接触になっていないと感じる。

(委員) 婦人会では、先日民踊流しに参加したが、雨で中止の議論をした際、「初めて出席するから1回だけでも実施してほしい。」という声があった。きっかけを与えてあげると出席してくれる。

(議長) 子ども会はコロナ前と後を比べて変化はあるか。

(委員) かるた大会はコロナの影響で縮小している。令和4年度は高学年の部だけに限定して行った。令和5年度は全学年対象に行ったが、2・3年やらない期間があると参加者数も元に戻らず、縮小してしまっている。

(議長) 志木市老人クラブ連合会はイベントの開催について変化はあるか。

(委員) コロナに関しては特に影響はない。イベントを計画する際にどうしたら実施できるかを考えている。また、リーダーシップが問われる時代なので、「どうして開催するのか。」と聞かれた時に理路整然と説明できるようにして実施している。

(委員) 郷土芸能団体は、コロナ禍でも大丈夫だろうと思っていたが、令和4年度の祭礼では参加者が大幅に減少してしまった。これを受けて、やはりこちらから積極的に出向いていかないといけないと考え、今年度は志木っ子タイムでお囃子、御輿体験を実施することができ、子ども達は体験すると自信がついて祭礼当日も楽しくやってくれた。講師として教えてくれた成年層にもいい影響になった。

(議長) 大学ではコロナの影響はあるか。

(委員) 大学は現在、オンラインを使わない方向で動いている。ただ、配慮届の提出があれば、オンラインと対面のハイブリットで実施することも可能である。コロナ時期に大学時代を過ごした学生は、人との接し方が苦手な就職活動に苦労していた。その経緯もあって現在の学生は地域活

動を積極的に行っている。もし学生も企画段階から携われるイベントがあれば協力したい。

(委員) 私自身は今もマスクを外さないの、コロナの影響はある。コロナ前は子ども達のチャンバラ体験があったが、今は実施していない。ゲーム内のチャンバラだけでは良くないので、復活させたいと思っている。

(委員) 舞踊は高齢化もあり、場所の確保ができないと諦めてしまう人が多い。また発表の場など、目的がないと覚えられないので、大事だと思う。地域のぼんおどり大会も昔と比べるとすごく参加者が少なくなった。子どもから大人まで一緒にできるイベントなので続けてほしい。

(議長) 今はお祭りなど、町内会で行っていることを知らないで来る人がいる。

(副議長) 図書館の目線になると、柳瀬川図書館は各種イベントを中止している期間が長かったが、いろは遊学図書館は中止期間が短かった。継続していれば行きたいと思ってくれる人がいるので継続してほしい。先日、人権研修会で聴導犬の講座を行っていたが、親子を含め、沢山の人が参加していた。きっかけがあったら学びたいという意欲のある人はいる。

(議長) 最近は各種イベント等に子どもが一人で来ることがなく、保護者が同伴していることが多いように感じる。それでは独立心が育ちにくいのではないかと心配もするが、事務局はどう感じているか。

(事務局) 確かに、現在は子どもだけで参加させることに不安を感じる保護者も多い。当課では、例えば文化体験道場などでは、体験時間中は保護者に別室等で待っていてもらい、成果発表の場は見てもらうなど、子どもだけの時間も大切にするようにしている。

(委員) 最近はオープンキャンパスも9割が保護者同伴である。オープンキャンパスでは、保護者に対しては別メニューを用意するなど、やり方を変えている。

(委員) お囃子ではむしろ親子で楽しめるように取り組んでいる。その結果、親がのめり込んでくれて、子どもが中学入学に伴い部活等で忙しくなり、参加できなくなっても、親は参加し続けてくれていることも多い。

(議長) 他に意見はあるか。

(委員) なし。

(3) その他 説明：石川主任

事務局より説明

・郷土文化体験（志木っ子タイム）について

お囃子と御輿の担い手を増やすための取り組みとして、宗岡小学校と宗岡第四小学校の志木っ子タイムの時間に郷土文化体験を実施した。社会福祉協議会に協力いただき、3日間開催した。

・研修会について

昨年度、関東甲信越社会教育研究大会への参加と市内文化財研修会（田子山富士塚・旧村山快哉堂）を実施した。今年度は、秋ごろに郷土資料館を中心に視察しようと考えている。

（議長） 神社やお祭りが宗岡に3つあるので、郷土資料館と一緒に回るのはいかがでしょうか。

（事務局） 距離を考えると産財氷川神社なら行くことは可能である。詳細は議長と相談して決めようと思うがどうか。

（委員） 異議なし。

5 閉 会 有馬隆江副議長